

日本ふとう記(食と風土の日本探訪) 七の五十四 最終回

神話とチキン南蛮(宮崎県)

古事記(こじき)は、神代における天地(あめつち)の始まりから推古天皇の時代までの出来事を収録しています。上つ巻(かみつまき)は天地開闢から日本列島の形成、天孫降臨を経て神武天皇の誕生までを記す、いわゆる日本神話。その一部を紹介いたします。

太陽神である天照大御神(アマテラスオオミカミ)は弟の須佐之男命(スサノオノミコト)の乱暴に怒り、天岩戸(あまのいわと)に閉じこもりました。そのため、高天原(天上界)も葦原中国(地上界)も闇となりました。困った八百万の神々は天安河原(あまのやすがわら)に集まり相談、苦勞の末なんとかアマテラスを天岩戸から引き出すことに成功しました。

この話は天上界のことなのですが、神話を現実の場所や歴史と結び付け解釈したいためか、天岩戸とされる場所は多くあります。天岩戸、天安河原の場所としての最右翼は、宮崎県西臼杵郡の高千穂町です。アマテラスの孫・迹迹基命(ニニギノミコト)が、葦原中国の統治のために降り立った(天孫降臨)地も高千穂町。もうひとつの降臨の地は宮崎県と鹿児島県の県境に位置する霧島連峰の山「高千穂峰」です。紀元節の歌には「雲に登ゆる高千穂の」とあり、坂本龍馬が妻お龍と日本初の新婚旅行で訪れました。



チキン南蛮

宮崎県は神々に祝福された地であるようで、豊かな食に恵まれました。東国原前知事のPRで宮崎牛、みやざき地頭鶏(じとっこ)がすっかり有名です。ここでは延岡市を発祥とするチキン南蛮をとりあげます。昭和三十年代に同市内の洋食店で出されていた賤い料理が原型です。当初は、魚の南蛮漬け

などと同じく、衣を付けて揚げた鶏肉を甘酢に浸したただけのものでしたが、近年はタルタルソースで味付けしたものが主流となり、宮崎県だけでなく全国に普及しています。今では両方も元祖とされ、延岡市では平成二十一年、関係者、学識経験者、料理研究家などが参加し「チキン南蛮発祥の地宣言シンポジウム」が開催されました。

豊かな食に恵まれた宮崎県ですが、口蹄疫や鳥インフルエンザ発生という不幸に襲われたことは、記憶に新しいところです。県では、口蹄疫からの再生・復興方針に基づき様々な取組を実施、中長期的な対応を要する事項については先頃、今年度から平成二十五年度までの三年間の工程表を策定しています。

世界的な食糧危機がささやかれ、最近では原発事故に起因する牛肉のセシウム汚染が問題となつていきます。「食」は、たゆまぬ努力によって護っていかねばならないものです。



高千穂峡

高性能浄水器
レンタル継続中!!

安全でおいしい水を
●たっぷり使えて月々たったの
1,575円(税込)

月々1,575円で美味しく安全なお水を飲みませんか?
容量が大きいのでふんだんに調理水につかえます。
トリハロメタン(トリハロメタン)も強力に除去します。



正しい応急処置③
鼻血、強く鼻をつまむ

鼻血の対応については誤解が多いようです。たかが鼻血と軽く見られているからでしょうか。
①首の後ろをたたく②上を向く
③ティッシュを鼻の穴に詰める
すべて間違いです。

首の後ろをたたいても止血の効果はありません。上を向いていると、血液を飲み込んで気分が悪くなる可能性があります。ティッシュを鼻の穴に詰めるのも、よくありません。ティッシュでは傷を圧迫する効果があまりないので血がとまりにくく、ティッシュをとる時に再出血しやすいのです。また、無理に詰めると鼻の粘膜を傷つける危険もあります。

鼻血を止めるには、鼻を強くつまむのが基本。血を飲み込まないように、座って軽く下を向くようにします。

★ゴボウの唐揚げ★

〈材料〉ゴボウ、片栗粉、めんつゆ

- ①ゴボウはよく洗い、拍子木切りにする
- ②ひたひたの水からゴボウを煮て、めんつゆで少し濃いめに味付け。あら熱をとり、煮汁をきる
- ③ゴボウに片栗粉をまぶし、油で揚げてできあがり



ビールのつまみ、子どものおやつにもGOODですよ。

「わが家の自慢料理」にふるってご応募くださるよう、お願いします。採用された方には図書券をプレゼントします。

わが家の自慢料理
〈滋賀県犬上郡 岸本恵様〉